第一講・文学的文章①

◆人物・場面をとらえる

人物とは「だれが」のことです。場面とは、「いつ」「どこで」のことです。この二つに、事件（「どうして」「どうなった」）を加えた三つを「物語の三要素」といいます。物語には必ずこの三つの内容が入っており、この三つをとらえることが物語を読みこなすことにつながります。

(1) 人物像のとらえ方

物語には、さまざまな人物が登場します。登場人物の性格・人柄・個性のことを人物像といいます。

① **直接表した言葉に注目する**……「やさしい」「短気」など。

② **外面的な特徴をおさえる**……職業・服装・顔つきなどをおさえましょう。

③ **内面的な特徴に注目する**……感じ方・考え方・性格などを、表情や態度、言動からつかみましょう。

(2) 場面・事件のとらえ方

場所や季節、時刻などだけではなく、どんなできごとがあったのか、どんな状況なのかをつかみます。

① **できごと**……だれが、いつ、どこで、何をしたのか、その場で何が起こったのかをしっかりおさえましょう。

② **状況**……できごとやその場にいる人物の様子をおさえ、その場面がどのような様子であるのかをとらえましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学六年生の二郎(じろう)たちは、引っこすことになった幼(おさな)なじみの克(かつ)ちゃんのお別れ会として、多摩川(たまがわ)の源流(げんりゅう)をたどるキャンプに出かけた。

翌朝(よくあさ)四時半に、セットした目ざまし時計が鳴った。*1四樹(しき)だけはまだよく眠(ねむ)っていたが①二郎、克ちゃん、和也(かずや)、久里(くり)は起きだした。

きのうの夜、八時半に、四樹といっしょに寝(ね)たので、睡眠(すいみん)はじゅうぶんにたりていた。体調が万全(ばんぜん)なので、二郎はほっとした。今日は、克ちゃんもいっしょに源流の道をたどる最後のチャンスだ。みんなそろって、多摩川のはじまり、水干(みずひ)まで登るのだ。

②バテてなんかいられない。

かなり冷えこんでいるが、天気は晴れだ。まだ梅雨(つゆ)のさなか、ラッキーだった。

克ちゃんが火をおこして、久里がカレースープを作っている間に、二郎と和也で、寝袋(ねぶくろ)を丸めて袋にしまったり、他の荷物を片(かた)づけた。

五時には、四樹を起こして、カレースープとパンの朝ごはんを食べた。食べている間じゅう、③四樹は、いつになく無口だった。

「四樹ちゃん、まだ眠いの？」

と、久里が聞いた。

「ううん。眠くない。なんだかここがズキズキするの。」

と、四樹は緊張(きんちょう)したようすで心臓(しんぞう)のあたりを押(お)さえた。

食べ終わると、すぐに出発した。今日一日の行程を考えたら、一分もむだにしたくなかった。鍋(なべ)は水につけておいて、帰ってから洗うことにした。

みな、*2デイパックを背負(せお)っている。中には、雨具、コップ、水とおやつが少し入っているだけだ。が、その少しの荷物も、四樹には持たせないほうがいいと考えて、二郎は自分のデイパックに入れてやった。

④四樹がバテたら、今日のいっさいの予定は、狂(くる)ってしまう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

　キャンプ場の奥(おく)から、森の中を二十分くらい歩いたら、車道に出た。さらに、十五分ほど車道を行くと、笠取山(かさとりやま)の登り口、作場平(さくばだいら)に着いた。
　そこから、山道がはじまる。「源流の道」と呼(よ)ばれているコースだ。
「わたし、先頭を行く。」
といって、地図を持っている久里が、登りはじめた。
⑤「四樹、久里のあとについていけ。」
と二郎がいうと、四樹は緊張した顔で、うなずいた。二郎と克ちゃんと和也が、そのあとからついていく。
　川の流れの音を聞きながら、うっそうとした木立の中の、ゆるやかな坂道を登っていった。朝六時過ぎ。まだすずしい。
「チチチ……」と、鳥の鳴く声が聞こえてくる。
　久里は、帰りのことを考えているらしく、けっこう早いペースで登っていく。四樹の、ハアハアという息の音が聞こえてくる。じきに、汗(あせ)ばんできた。
　やがて、三十分ほど登ったころ、二本の川が合流している所にぶつかった。久里が地図を見て、
「多摩川の本流は、こっちだよ。」
と、右の支流を指さした。
　道は、そこから本流をはなれて、森の中へと続いていく。
「このあとは笠取小屋の近くに行くまで、もう水はないから、ここで飲んでいこう。」
と久里がいって、休けいした。

（三輪裕子(みわひろこ)『最後の夏休み』）

＊１四樹＝二郎の妹で、小学一年生の女の子。二郎は、家の事情で、四樹を連れてキャンプに参加した。

＊２デイパック＝ハイキングなどに用いる小型のリュックサック。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「二郎、克ちゃん、和也、久里は起きだした」とありますが、キャンプ場を出発するまでの四人の様子として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　多摩川のはじまりを見るのが楽しみで、はしゃいでいる。

イ　時間を有効に使うために、てきぱきと行動している。

ウ　余裕（よゆう）をもって行動できなくて、いらいらしている。

エ　計画どおりに行動しなくてはいけないと思い、緊張している。

□

問二　この日の目的地はどこですか。文中から二字で書きぬきなさい。

□□

問三　――線②「バテてなんかいられない」は、だれの思いですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　四樹　**イ**　二郎　**ウ**　克ちゃん

エ　和也　**オ**　久里

□

問四　――線③「四樹は、いつになく無口だった」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　自分だけ五時まで寝ていたことを申し訳（わけ）なく思ったから。

イ　朝早くに起こされて、きげんがよくなかったから。

ウ　つかれていたため、口をきく元気がなかったから。

エ　歩き切れるかどうか心配で、緊張していたから。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五 ――線④「四樹がバテたら、今日のいっさいの予定は、狂ってしまう」とありますが、二郎たちが予定どおりにいくことを強く願っているのはなぜですか。次の［　　］にあてはまることばを文中から十五字で書きぬきなさい。

今日は、幼なじみのみんながそろって多摩川の［　　］だから。

［解答欄］

問六 ――線⑤「四樹、久里のあとについていけ」とありますが、このように二郎が言ったのはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア これ以上歩かせるのは無理かもしれないと不安になったから。

イ 久里のあとをついていけば登り切れると思ったから。

ウ 少しでも緊張をほぐしてあげたかったから。

エ 四樹のめんどうをみたくなかったから。

［解答欄］

問七 この場面から考えて、久里はどんな女の子だとわかりますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 判断力と行動力があり、みんなをまとめられる女の子

イ 思いどおりにならないと気がすまない、自分勝手な女の子

ウ 自分に対しても人に対しても厳（きび）しい、気の強い女の子

エ 弱い人のことには気が回らないが、明るく元気な女の子

［解答欄］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答編

小学6年　国語〔応用〕

第一講　文学的文章①

一題目

問一　イ
問二　水干
問三　イ
問四　エ
問五　源流の道をたどる最後のチャンス
問六　イ
問七　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。